

【共同研究】TVドキュメンタリスト木村栄文の軌跡 研究講演 第1回

「木村栄文とその時代 —TVドラマ演出家の立場から」

日時： 6月30日（土）13時30分開始、16時30分終了（予定）

上映：「桜吹雪のホームラン ～証言・天才打者大下弘～」

講演：「木村栄文とその時代」

会場： 西南学院大学 2号館203教室

※事前申し込み不要、入場無料、一般市民の方も歓迎します

講師：佐々木昭一郎（映像作家、元NHK所属）

70年代、言葉には尽くせぬ不思議な魅力に溢れたドラマをブラウン管から発信し、衝撃的感動を与え、近年活躍する映画監督たちに多大な影響をもたらした。

代表作に、「さすらい」（71年）、「夢の島少女」（74年）、「紅い花」（76年）、「四季・ユートピアノ」（80年）、オール海外ロケ作品の《川3部作》（「川の流れるはバイオリンの音 ～イタリア・ポー川～」（81年）、「アンダルシアの虹 川（リバー） スペイン編」（83年）、「春・音の光 川（リバー） スロバキア編」（84年））などがある。

●木村栄文（きむら・ひでふみ）

通称“エーブン”。2011年3月逝去。西南学院大学卒業。RKB毎日放送のディレクターとして、70年代から90年代にかけて数々のドキュメンタリーをお茶の間に届けてきた。その多彩な作風は自由奔放、ときに荒唐無稽。画面から溢れだすのは、人間の美しさ、哀しさ、そして可笑しさ。2011年の山形国際ドキュメンタリー映画祭において、集まった人々を激しく興奮させた。

●「桜吹雪のホームラン ～証言・天才打者大下弘～」(81分、1990年)

構成：木村栄文 撮影：久保田稔 編集：栗村皓司 音声：藤木大二郎

ナレーター：井川良久、芳賀喜子

《敗戦直後のプロ野球界が生んだホームランキングで、“野武士軍団”西鉄ライオンズの主砲・大下弘。その生き様、光と影を往年の名選手や教え子たちの証言で彫り上げる。フォークボールがまだ“魔球”だった時代の英雄譚には、戦友たちが語る「伝説」こそ相応しいと言わんばかりの粋な演出に、野球ファンならずとも泣き笑う。》

主催：西南学院大学 & RKB毎日放送 共同「木村栄文研究」

田村 元彦(法学部)mtamura@seinan-gu.ac.jp